

英国、2030年までに全電力の1/3を洋上風力で賄うと発表

2019年3月7日、英国のビジネス・エネルギー・産業戦略省（BEIS）は政府と産業界の共同で洋上風力発電の拡大に取り組み、2030年までに英国の電力の1/3を洋上風力で賄うと発表した。

英国は産業戦略の一環として、世界のどの国よりも多くの投資の可能性を持つ英国を再生可能エネルギーの世界的リーダーにする政府の野心の表れでもある。

洋上風力発電関係の輸出を2030年までに2018年の5倍の26億ポンド（3600億円）にする為、産業界は洋上風力関連に2億5000万ポンド（350億円）を投資、生産性や競争力の強化を目指すものである。

これは英国の歴史上初めて化石燃料よりも再生可能エネルギーからの電力の増加が見込まれ、2030年までに英国の電力の70%が低炭素源からとなり、この為英国では今後400億ポンド（5兆6000億円）のインフラ投資が行われる。

20年前に始まった洋上風力発電業界以来の革新的な政策で、2030年までに27,000人の雇用を見込んでいる。

2018年7月、政府が向こう10年間に5億5700万ポンド（780億円）を拠出し、クリーンな洋上風力発電の更なる増加を約束しており、これからの洋上風力発電プロジェクトによって、それに係るスコットランドのウィック市や南イングランドのワイト島が直接恩恵を受けることを確実にし、英国の洋上風力発電プロジェクトの国内調達比率を60%に増加させ、プロジェクトコストの削減、労働環境を整備し女性の活用などが計画されている。これらにより英国は欧州最大の洋上風力発電市場となり、2030年には洋上風力発電容量は30GW（世界洋上風力発電の約20%）となる見込みである。

北東イングランド、イーストアングリア、ハンバー、ソレントなどにある洋上風力関連の英国企業を競争させ、以下の様な分野で英国が次世代の洋上風力発電イノベーションのリーダーとなるために、新たに2億5000万ポンド（350億円）を拠出し洋上風力発電パートナーシップを結成させている。

・自動化技術 ・先進製造技術 ・新素材開発 ・浮体型風力発電 ・大型タービン

更に、ヨーロッパ、日本、韓国、台湾、アメリカなどへの洋上風力発電システムの輸出を2030年までに年間で現在の5倍の26億ポンド（3600億円）に拡大し、小規模のサプライチェーン企業の初めて輸出支援も行う。

また英国政府は、インドネシア、ベトナム、パキスタン、フィリピンの石炭火力発電の継続を断念させ、英国独自の洋上風力発電プロジェクトの技術支援プログラムのために、英国の洋上風力関連企業に 400 万ポンド（6 億円）以上を拠出する。

ビジネス・エネルギー・産業戦略省（BEIS）大臣、クレア・ペリー氏は次のように述べている。

この洋上風力発電プロジェクトは、英国のクリーンな洋上風力発電の急増を後押しし、沿岸コミュニティへの投資をもたらし、この成長する分野におけるグローバルリーダーとしての地位を維持することである。2030 年までに、英国の電力の 3 分の 1 が洋上風力発電によるものとなり、これによって、英国全体で多くの質の高い仕事の機会が増え、英国の力強い洋上風力関連企業の活力を生み出し、輸出の機会も増え、これがまさに英国の産業戦略の実践である。

また洋上風力産業評議会議長のベンジャ・スイクス氏は次のように述べている。

英国の産業戦略の重要な部分として、政府とパートナー企業と進めて来た洋上風力発電プロジェクトは、将来の低炭素で手頃な価格で信頼できる電力システムの中心に位置するであろう。この洋上風力発電の成長ブームの到来は世界の洋上風力発電市場は 2030 年までに年間 300 億ポンド（4 兆 1000 億円）に達すると予想され、英国だけでなく、世界中で多くの洋上風力発電関連企業が成果を上げることだろう。

英国は EU 離脱問題で国会も国民も企業も激しく揺れ動いている最中、動揺することなく担当官庁が将来を見据えたエネルギー改革を粛々と進捗させており、特に突出した洋上風力発電プロジェクトに係る技術と設置実績から来る総合力をいかんなく発揮している様子には驚きを隠せない。日本も官民一体となって地の利を生かした地熱発電や海洋エネルギー活用した具体的な再生可能エネルギーの開発に英知を結集すべきだと思う。（了）